



### Juelich Soft Matter Days 2006 出席報告

A02 班 好村滋行

2006年11月14～17日にドイツのボン郊外にある Gustav-Stresemann-Institut で開催された Juelich Soft Matter Days 2006 に出席した。この研究会は Forschungszentrum Juelich のソフトマター研究グループが毎年企画しているもので、今年ですでに6回目を数える。また、この研究会は EU のネットワークである Soft Matter Composites (SoftComp) のサポートを受けて運営されている。プログラムとしては33件の口頭発表と110件のポスター発表で構成されていた。研究会の詳細については <http://www.fz-juelich.de/iff/jsmd2006/> を参照していただきたい。

以下では個人的な視点で研究会について書かせていただく。初日（15日）は朝から始まり、Russel、Marrucci らの講演があった。Ballauff と Vliegthart の話題は興味深かった。午後には金谷利治氏の招待講演があった。Cicuta のドメインの拡散の話は私の研究と関係が深いので注意深く聞いたが、残念ながら私の理論の結果と一致していなかった。私自身の講演は最後で、一応、無難に終わることができたと思う。講演後に数名の人がわざわざ質問をしに来てくれた。話の中でスライド1枚を使って我々の特定領域「ソフトマター物理」の宣伝をしたところ、後で Royal Society of Chemistry の雑誌 “Soft Matter” の編集者が詳しいことを知りたいと名刺を渡してくれた。

二日目（16日）には Yeomans、Bonn、Binks、Porte らの講演があり、どれもとても良い内容であった。オックスフォードの Yeomans は初めて見るので、興味津々であった。日本人では小泉智氏と柴山充弘氏の招待講演が午後にあった。柴山氏の “Super Gel” というタイトルは多くの人の興味を集めていた。夜のバンケットでは、Yeomans、Gompper、Juelicher、Ajdari、Olmsted、Marrucci、Lu ら理論家の円卓に座った。良く知っている人々と話ができて、リラックスした楽しい時間を過ごすことができた。最終日（17日）に注目したのは Juelicher と Ajdari の講演である。若手の Kierfeld と Royall も頑張っていた。研究会は午前中で終了した。昼食後にドイツでポスドクをしている野口博司氏と岩下靖孝氏と別れの挨拶をした。

ヨーロッパのソフトマター研究者の層は厚い。彼らは長い時間で作り上げた人的なネットワークや、新しい研究を生み出す枠組みを持っているので、この点は日本も是非参考にし、良い部分は取り入れる価値があるだろう。我々の特定領域も大いに頑張っていて、EU の SoftComp 以上の成果を挙げていきたいと考えている。そのためには彼らのネットワークとの交流が今後、不可欠となるだろう。

---

好村滋行（首都大学東京・都市教養学部・助教授）